

新米先生

学習指導の工夫

教師として いい成長をしたい！

文 | リンリン (ペンネーム)
イラスト | 松井晴美



悪いのは時代のせい？ 子どものせい？
親のせい？ それとも…？

不安でいっぱいだった1学期を終え、行事も乗り越え、なんとなく学校の流れも掴み、少しずつ教師として「やっていける」気がしていた2学期。職員室で同期の若い先生と学級の様子について愚痴のこぼし合いをしていた時、同じ学年を組ませていただいていたベテランの先生が、にこやかにおっしゃいました。

「悪いのは時代のせい？ 子どものせい？ 親のせい？」

柔らかな優しい雰囲気ですが、芯の強い先生で、まわりの先生からも一目置かれていました。

「愚痴をこぼすのもストレスをためない大切な方法だけど、誰かのせいにしているうちは伸びないわよ。こんな時代だからこそ、あなた自身が力をつけて強く

なりなさい。若さを武器にできるのなんて、あつという間よ」

ついたのは自信か？ 慣れか？ 授業力か？

教員になりたいという夢が叶って、ドキドキしながら初めて教壇に立ち、子どもたちのキラキラした目に感動して、この子たちに力をつけてあげたいと決心した初日。

実際は会議や提出書類や学校全体の仕事に追われ、自分のことは後まわしで、指導書や教育関係の本を頼りに付け焼き刃の授業を行い、自己嫌悪に陥っていた1学期の前半。

どういうふう授業を行えばいいのかもわからずに教壇に立つたびに緊張していた毎日が、なんとなく当たり前になり、子どもを動かすのにも慣れた頃、保護者から「休み時間に一緒に遊んでくれると喜んでいきます」「若くてお姉さんみたいだから先生のこと大好きなんですよ」と言われ、嬉しくなっていました。

だけど、ふと気がつくと、隣のクラスの子どもの様子と、自分のクラスの子どもの様子に差が見られるようになり、保護者からの意見も増え、ようやく私は「遊んでくれるから好き」「若いから好き」という子どもの評価が、教師としての正しい評価ではないのではないかと考えるようになりました。

どんどん若い先生が増えるから…

毎年、新採用の先生が配属され、学校の組織がどんどん若くなってきています。いつのまにか先輩になり、後輩にアドバイスをしなければならなくなり…、「まだ新米だから」という言い訳がきかなくなるのは、あつという間です。若さが武器器にならなくなる前に、どんな力をつけてなくてはならないのか、今なら、ベテランの先生がおっしゃった意味が実感できます。

授業のうまい教師になりたい。まず、私は頭を下げることを覚えました。空き時間に他の先生の授業を見学させてもらい、勉強しました。「教えてください」と頭を下げて、アドバイスしてくださらない先輩はいません。魅力的な授業をする先生のクラスの子どもの目はキラキラしていて、私になりたかったのはこういう先生だったと憧れます。

以下は、私が教わった授業のポイントです。以前にも本誌でご紹介しましたが、大切なことなのであらためて振り返ってみたいと思います。

(1) ねらいを明確に

この時間では何を教えるのか、どんな力をつけさせるのかをはっきりさせる。

1時間を振り返った時に、ねらいにぶれがないように気をつける。あれもこれもと欲張らずに1時間にひとつにしぼっていく。

(2) 心をつかむ

導入では、子どもを引きつける。「この勉強は楽しそうだぞ」「何だろう」「不思議だな」「やってみよう」と興味を引きつけ、意欲を高める話題や質問、写真や小道具を準備しておく効果的である。ただし、授業の展開につながる提示の仕方であるように心がける。導入の5分だけ盛り上がり、残りの40分はどんなよりしているのは寂しい。

(3) 板書は授業の結晶

板書は1時間の授業の流れの結晶である。写真や図、文字の位置などを計画的に配置し、書いた部分を消さないようにしたい。学習障害の子にも配慮し、視覚的に効果があるように、チョークの色使いも考えるとよい。

(4) 指導も活動も両方入れて

1時間の中に、子どもの活動を取り入れる。教師の話聞いて黒板を写して終わりにしない。逆に指導なき活動では子

どもの力はつかない。バランスよく両者を取り入れると授業にメリハリが付き、集中力も保たれる。

(5) 学び合いが大事

発表した数人の友達の意見を聞いて終わりではなく、一人ひとりに予想を立てさせたり、感想や考えをもたせたりする時間を確保する。

考えをもたない授業は、子どもの力がつきにくい。また、友達の考えを聞き合い交流し、学び合うことができるのが集団の良さである。

(6) 振り返りを大事に

めあてに沿って子どもに振り返らせ自己評価させることも大事である。また1時間ごとに子どもを評価して、自分の指示や展開に改善点はないかを見直し、次の自分の授業に生かす。1時間ごとに丁寧に見とつていくと、大幅に遅れる子が少なくなる。

教師としての成長をしたい

遊んであげること、子どもに近い目線で話を聞くこと、若いからできることもいっぱいあります。でもやっぱり、いつまでも若さを武器にできないなら、授業

で勝負できる教師に成長したいです。一緒に組んでいたベテランの先生はもう退職されていないけれど、大切なことをたくさん教えていただきました。

「こんな時代だからこそ、あなた自身が力をつけて強くなりなさい」

今でもくじけそうな時、思い出す言葉です。力をつけるためには、忙しい日々の中でも、学び続ける気持ちをもつことが大切です。まわりに目を向ければお手本にしたい素敵な先生方がたくさんいます。精いっぱい努力すれば、子どもたちや保護者の信頼は結果として後からついてきます。

毎日の授業を頑張つて、お互いにいい成長をしていきましょう。

